



夏しど

春を

定二良

流行百家句集夏之部

黄花并六撰

四月

|    |      |    |    |   |   |    |    |
|----|------|----|----|---|---|----|----|
| 四月 | くさむや | 山を | 四月 | の | 影 | け  | 宗徳 |
| 相  | 起    | う  | 茶  | お | な | う  | 那  |
| ま  | な    | り  | い  | の | と | 四月 | の  |
| 大  | 空    | の  | け  | ま | や | う  | 影  |
| 戸  | 口    | う  | ゆ  | 月 | の | 見  | ゆ  |
| 梢  | 臺    | を  | 鳥  | の | 祝 | く  | 四月 |

|    |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|
| 宗徳 | 杉 | 長 | 湯 | 梶 | 龍 | 巴 | 紅 |
|----|---|---|---|---|---|---|---|

まなぬ山ささる四月の都  
う舌

悪を果と甲りせ半よま  
枕窠

一粒小重、落るるや月う南  
素卜

相あふ節の蓋と春四月に  
赤堆

本のるうく大川又さるは月う  
洞月

卯月 うらいたは出く格とる卯  
有皇

立夏 交るのや多ふ竹種るま  
吾我

産くくくくくくくくくくく  
二有

交まのくと人いりさるる宇治の里  
和菜

初夏 人顔の夏ふ事かり戸口う那  
魚眼

山ささるや友はくくくくくく  
五城

うさくくと交あうくくくく  
とら

夏うまうまうまうまうまうま  
古童

交あうまうま火の氣終るぬ山家う都  
葦堂

夏衣 多さるやお落るるも 更 衣  
赤后

山鳩の舞うおめくところもうへ  
乙越留

松原やおる原や松の交 名  
柳里

悪あのを下くくくぬらるもくく  
修厚

交あるは相りもおつうけ  
倉庫

家の戸は課火さくくくく衣うへ  
嵐丈



夕魚のゆき雲破ります

子歌

青き雲の流るる

一

つくと夏あて

五城

まら屋涼しき

枕窠

住よりハ小あ

也厄

流原

晴芒のうけえ

逆柳

一りむ流原

枕ふ

灌佛

灌佛や山も

升六

灌仏子

方珠

夏入

夏入る

赤后

夏入る

ト仁

夏電

夏電

也厄

夏電

有珠

夏書

夏書

也厄

夏書

流光

夏念

夏念

也厄

夏念

云古

練供粮

練供粮

二有

練供粮

赤后

夏秋

夏秋

赤ト

夏秋

まうとくみまうしんりたのき

風当

麦秋や初より淋しとつた姥

うま一

新茶

大船もり和歌うた新茶は

夢山

人ちうくまのまゝ新茶う角

宗徳

青天のおよ入まのハ新茶は

二有

寒いぞ新茶の白く戸は

盡次

海草干

つり干は溪の夕月曇り

ふ可

夏山

行法路をまわ山ありま山

有仙

世の中はなるとりしと不二の山

五城

朝起と眼も茶よ夏は山

盡次

ま山や六月のまゝ水のみ也

言来

三ツと海日言ぬま山や

舎来

あつ山や四つの家五三新

二有

六月のこゝまも山

五城

ま山は六月の山あり夏の山

松多

あつ山は夜ふ蓋とてま山

系橋

ま山は六月の山あり夏の山

系橋

三井もろと五人とてま山

系橋

船もまろと五人とてま山

松多

ま山は六月の山あり夏の山

系橋



夏日

木城山ゑの相りう

學心

なつのはな

二中

海越やまのり

之傳

夏秋

ゑの折や

宇松

大山やまの夜

赤葉

短夜

短おとあ

針六

短おは

乙羽

短おは

雷所

短おは

省家

短おは

五城

短おは伊勢山

杉長

短おは

孝史

短おは

有筆

の易夜

の中と

宗拱

の易と

馬蓼

灯火に

お朱

行く

風尚

郭公

おけ

善候

三

五城

は

宗拱



|            |   |
|------------|---|
| 大薩のはしめ終りや郵 | 梅 |
| 山吹をさか中一鳴くよ | 瓜 |
| 實々ききあへくおみを | 瓜 |
| はしうこのきふおを  | 方 |
| おやうさ人のおうら  | 吹 |
| いりもより海を    | 遠 |
| かきき吹ふきり    | 末 |
| あつりよおか     | 子 |
| るのえんお宮     | 柳 |
| 子規ゆめ満干き    | 梅 |
| 聲もけり       | 二 |
| おとくお深山の夏を  | 比 |
| 晴もく        | ふ |
| ほとく        | 末 |
| 不み降        | お |
| うらひすの小     | 子 |
| 老          | 妻 |
| 字々         | 危 |
| 布穀         | 雷 |
| 宗子         | 水 |

雷

夕ぐけや細もあゝさぬえんこそ  
あむあそつくを紀てあまなり  
宗子をあゝぬあもかんこ鳥  
うぐささあゆまのき移めを  
梅の中やまゆあゆの宗子を  
閑子を歩りあゆみ海乃若  
情あまゆま芋姫あてー宗子を  
うぐささ情とせうすむあゆま  
風の吹うらハゆめようんことり  
合歡の本れ実とへもゆりあまを

時子  
二序  
杜園  
後子里  
枕窠  
祇山  
白河  
かぬ  
一  
景

水鏡

閑子を歩り顔なりかんこそ  
火桶もも情まやうきにおのろ  
灯ももせんとくハ初あゆ水鏡  
あゆ鏡もも田舎うり相あま  
聲はあま物もあー初のらひれ  
大さそ夕めーはあゆ水鏡  
橋ももあゆうりあゆ情  
水鏡ももあゆうりあゆ宿  
田のあゆあゆうりあゆ宿  
あゆ鏡ももあゆうりあゆ宿

一場  
外  
子  
止  
蓋  
夜  
色  
宿  
宿  
宿

三十五

あけちのや蓬のちりを啼く鶴  
大るのちりや小只は啼く人な  
行く夕暮はなほねこのや川に  
あふりやうきうきと志はゆき  
けしけやちりてるふもきり  
さうらうきりき啼きあそび  
行く子 柳屋  
あけちのや蓬のちりを啼く鶴  
大るのちりや小只は啼く人な  
夕暮はなほねこのや川に  
あふりやうきうきと志はゆき  
けしけやちりてるふもきり  
さうらうきりき啼きあそび  
行く子

鶴 行く子 柳屋  
あけちのや蓬のちりを啼く鶴  
大るのちりや小只は啼く人な  
夕暮はなほねこのや川に  
あふりやうきうきと志はゆき  
けしけやちりてるふもきり  
さうらうきりき啼きあそび  
行く子

浮粟 行く子 柳屋  
あけちのや蓬のちりを啼く鶴  
大るのちりや小只は啼く人な  
夕暮はなほねこのや川に  
あふりやうきうきと志はゆき  
けしけやちりてるふもきり  
さうらうきりき啼きあそび  
行く子

大るのちりや小只は啼く人な  
夕暮はなほねこのや川に  
あふりやうきうきと志はゆき  
けしけやちりてるふもきり  
さうらうきりき啼きあそび  
行く子  
あけちのや蓬のちりを啼く鶴  
大るのちりや小只は啼く人な  
夕暮はなほねこのや川に  
あふりやうきうきと志はゆき  
けしけやちりてるふもきり  
さうらうきりき啼きあそび  
行く子  
あけちのや蓬のちりを啼く鶴  
大るのちりや小只は啼く人な  
夕暮はなほねこのや川に  
あふりやうきうきと志はゆき  
けしけやちりてるふもきり  
さうらうきりき啼きあそび  
行く子

柳屋 山  
あけちのや蓬のちりを啼く鶴  
大るのちりや小只は啼く人な  
夕暮はなほねこのや川に  
あふりやうきうきと志はゆき  
けしけやちりてるふもきり  
さうらうきりき啼きあそび  
行く子

長等

着等水油引きせり山のこ

完車

海月

川方やれたき候高あり海月

風船

海月名門をなもあつりきり

近柳

きりけを踏まうりけりけり

宗法

山位や海月のうきく文あり

相古

海松

うき房や松の小海をさふりし

一

初鯉

朔りし牡丹候きり初うり

何の旗

うり鯉印可交きりきり

柳白

葉生葉のふも若たりきり

丹厄

不足のきりきりきり初鯉

宗徳

鮎

淡子のいひふ進りけりお鮎

長候

鮎とふ三葉の梅ハをきり

定年

子鮎や淡世をいひきり

火采

一夜

月かきり公ふりてむきり

二中

牡丹

朔りおふきり牡丹う郡

有本

こやく初めゆひハきりぬ牡丹

雷沙

四月のきりきりきり牡丹系

折鳥

きり作し牡丹房きりきり

子敦

ぬり子のあてもつぬ牡丹

長候

菊畑の家のとけりの牡丹

倉米

五七

ゆふのゝやうに流る 牡丹の那

二巾

とあゝ火の葉よあまの牡丹が

二有

着るもよか 霞のしるる牡丹が

流火

かゝん暖く顔りさあまの牡丹が

何虹

まららや牡丹の葉乃さの月

流子里

芍薬

神にたれし芍薬 暖みより

針岳

芍薬やよ梅の節りさの月

山岳

芥子

りあまやきしめふさく 牡丹の上

子親

暖きもあまの節りさの月

芥子

秋後し中戸の節りさの月

少涯

うららけしあまの節りさの月

杉長

家建るとあまの節りさの月

板香

あまの節りさの月

十株

相魚のさの月

仙遊

けのさの月

雲海

葵

人のまぬたの葵

杉七

葵のまぬたの葵

三枝

あまの節りさの月

針六

あまの節りさの月

二有

あまの節りさの月

板香

おのけのゆらゆらりね 美 乐后

杜の葉のゆらゆらり茶 梅里

みゆのや水はおぼおぼ 美山

杜の葉のゆらゆらり 思み

生垣のふんふん 宇松

山吹の葉のゆらゆらり 宇松

杜の葉のゆらゆらり 燈采

藤の葉のゆらゆらり 夜来

うすの葉のゆらゆらり 二石

朝のけのゆらゆらり 燈采

杜の葉のゆらゆらり 不河

山を入るゆらゆらり 不河

夏菊のゆらゆらり 三枝

覆盆子のゆらゆらり 町子

ささのゆらゆらり 宇拍

群の葉のゆらゆらり 起竜

冷の葉のゆらゆらり 南之

ふゆのゆらゆらり 子松

毎の葉のゆらゆらり 魚眼

大船のゆらゆらり 舎来

茂

上〜下〜根の竹うけ〜

山

昔アノ木のち〜

善

獲知の果う〜

善

高嘉の系〜

善

揚乃多〜

善

多吹や〜

善

む〜山を推草〜

善

獲すぬ里〜

上

享茂 享言ふ〜

石

享本立 海子や〜

相

岸〜

山

り〜

山

お〜

十

籍〜

文

山〜

善

日〜

善

本下書 船〜

運

卯〜

子

う〜

杉

卯〜

方

うのふのらうとたなハあうり免  
 さまあらしむやはくまのまら  
 卯のむや催促うけうの種  
 卯のむやもーめまおとめの子  
 うのむや水もまらきー能戸徳  
 卯のふと門口まらき田まら  
 うのむやめぬおとめらう種  
 字のまらぬのう種おまらう  
 栗花 山平房のうくふまらう栗花ふ  
 抽ふ 枕のふのまらういまらうまらうのまら

か  
 二  
 枝  
 林  
 有  
 皇  
 杉  
 木  
 梅  
 宗  
 徳  
 有  
 請  
 杉  
 木  
 全

橘  
 朝高のうれ口より相のふ  
 ひくくふ赤相のふ咲ふり  
 秋かまら本の下くらぬ梅の実  
 かつらりと鮎ふまらう梅如実  
 口ふらまら路の門口咲まら  
 材不朝雲や材のふゆい都口



推不 松のふけやうきうきうきうき  
権のむ踏を凍し或夕い  
柳花 不柳 数りの日うおよまひり  
櫻 不 麦 枯うふとふまきく 櫻うふ  
ふ柳 ううきとのふけううちやま柳  
須不 大 猿ふふふ 咲きふいふふふ  
ふ 鳴うう 柳うふふふふふ 淡い  
思水

虚ふ

針六

馬来

二中

西危

風柳

吐游

思水

五月

五月 節々をり 初ううきく 五月いふ  
まよふふふまの年月と年うき  
大井ふ人うけうう五月うま  
ふくきふ初めとちきり 五月いふ  
川ふ 五月いふ 又ゆるる夜に  
大竹のねくふ末はく五月いふ  
端午 世の中 辰まの 初うきふ 五月いふ  
まのまこれ初をううううあふ  
昔 夢 初うきふ 初うきふ 初うきふ  
柳鳥

金鳥

宗松

字紅

ふ柳

二江

字史

吐游

針六

柳鳥

新えやちやち屋ーしー鳴ーしーり  
吐所  
馬蔘

懺 梅檀のふらりーふ 懺 ー那  
枕里

山里や牡丹も咲きー張のりり  
省糸

朔風のちハきーしー懺 味  
定在

懺 ぶきーくー気もあーきり  
暮虫

初 けやちやち屋ーあー稔  
吟白

つしきーうーも芦ふきーぬ 稔 うぬ  
宗徳

競馬 ちーりー鳴 目より金ーしー金 する  
乙羽留

勝るれ 柳ーと 思ーる 夕ーる  
馬朱

とーくーる 遊 あけーつ びーあ みのり  
梅鳥

湯炎の果ーしーりーきーしー金 馬  
吟ふ

うけ ねーえ 静 ぶ 危る 競る  
英丈

きーくーしー記 ーしーを 成 ーりーくーる  
暮虫

夏至 梅梅のねりも 友 至れ 暑ーり  
危

甲しーしーる けーしーく 友 至の 朔り如  
炊米

夜 ー延ーしー初 暑ーり 友 至れ 競  
ト仁

育る 初しーり 暑ーを 日 け 暑ーり 知りる  
子敦

中りるの 六りーと 暑ーり 知りる  
舎来

燕 ーを 志 泣ーる ーさ ぬ かり 五月 雨  
杜園

あけりるや 浅き水に 小峰子も  
多き水に 皆よき水に 五月 雨  
五月雨の とき 丁子丸  
あけりるや 浅き水に 小峰子も  
大寺ふむ 浅き水に 小峰子も  
あけりるや 浅き水に 小峰子も  
五月雨や 浅き水に 小峰子も  
戸口ちき 浅き水に 小峰子も  
あけりるや 浅き水に 小峰子も  
あけりるや 浅き水に 小峰子も

東雄

二江

枕里

定春

祇山

宗徳

吐淵

三三

梅

梅

入梅 梅の夜の 吟 梅の家 二 新  
まむけ 八の 梅の 雨  
梅の 雨 梅の 雨  
や 梅の 雨 梅の 雨  
と 梅の 雨 梅の 雨  
梅の 雨 梅の 雨  
入梅村の 梅の 雨  
梅の 雨 梅の 雨  
入梅晴は 日 梅の 雨

二有

ト仁

暮来

舍来

松来

鬼水

孤新

枕窠

浅光

水聚

く〜浪やまよき〜く入梅りう

梅鳥

五月宵 下言や念の入〜さ〜さ〜

念雁

火と無〜多ねふき〜り〜り

延柳

高き夜の更〜さ〜の〜お月やと

二中

五月宵 念折落る 夜の〜

舎来

さ〜の〜さ〜言〜う〜さ〜白〜ふ〜き〜お〜こ〜り

士童

五〜〜言 梅牛肥る 幸〜う 那

千城

夏月 梅うえをこよん〜く 伸〜う〜えの〜

升六

初〜月をこよ〜さ〜言〜り〜夏〜の〜月

子乳

板〜初〜月をこよ〜さ〜言〜り〜夏〜の〜月

升岳

口〜〜く〜の〜梅り〜〜〜夏〜の〜月

有仙

夏の月 娘と望〜う 育〜ま〜り

素操

驚〜養〜を〜十〜の〜の〜記〜ま〜く〜な〜の〜

総静

夏の〜〜提ゆ〜く 網の〜糸〜う 形

南之

さ〜の〜と〜見〜ま〜ハ〜め〜り〜な〜の〜月

比良

田 柱 田一 柱 梅〜う 卷〜り〜不〜二〜の〜山

梅多

北 國 や ち〜と 傷〜〜 田 柱

比良

一 柱 を 驚〜う 柱 足 ち〜 溪 田

梅多

朝の月 八〜り〜〜〜 田 柱

升岳

梅〜〜り〜〜〜 畔〜〜 塚 田

乙部留

大いし月とてえり田極ふ  
表標

夜を抄ふやうあはく田極時  
古江

早苗 子苗 卯りや照つけり  
字拍

田子取 二葉子とてり  
竹多

田子取 高き湯に極う  
五備

青田 初鮮のさふま  
金嘉

青田 子も後  
菊之

起りの器にえり  
三枝

無期や青田をぬけり  
洞月

席雨 子し女を  
子親

笋 小子のり  
斗燈

笋 丘小  
針岳

常と考  
枕象

笋 門と丹波の往来  
尾極

き竹のこ下捨  
宗徳

竹碎日 竹 抄く  
雷海

竹うえて見  
真山

抄中よりやられくの  
極お

竹 抄く  
針岳

る 二月 竹 抄く  
巢夜

不茹子 山うけのりよ二度うつらむ 茹子

海山 しろくく足らぬやうつ茹子

不茹草 片きや麻の踏しり 不茹草

不茹草 味子も味 文ど

更科 木作造 木うり 甲不茹草

指うく 夏ふりうり 木うり 木

十梅 木一梅の乾うね 木よつ 木

菖蒲 木ぬり木 木うり 木うり 木

木うり 木うり 木のちや 木のちや 木

木 木 木 木 木 木 木

木 木 木 木 木 木 木

釣蕙 釣木のうはり 木うり 木

百合花 咲きやう 木家の百合うり 木

木 木の足 木うり 木うり 木

百合花 木うり 木うり 木うり

木 木 木 木 木 木 木

木 木 木 木 木 木 木

木 木 木 木 木 木 木

木 木 木 木 木 木 木

菖蒲 木うり 木うり 木うり 木

魚心

木

已

舎来

方珠

木

巴

木

木

木

舎来

木

木

木

木

木

木

木

木

木

立草 しくおゆき玉くやきれ草

杉名

紫 夕暮りたる日の降るらりさか

善堂

紅玉 みの念なる夕暮り しくけり

河内城

くれ通る しくれまやみの念

梅鳥

紅のまればけりかの雲あ しくけり

蓮柳

紫陽花 くれ之ハ紫陽花のちる夕ぐれ

全

紫陽花のうきまけり しくけり

流光

紫陽花や東のけり しくけり

去後

ちるまのふけりけり 峰のき

持堂

紫陽花の咲くけりけり 夕ぐれ

首我

紫陽花 静さの果を しくけり 昔のふ

方珠

ちいともふり ちかきり 昔れく

必渡

きうけりや 舞のけり 昔のふ

赤良

塙の生息ところよ けりけり

尻丈

まのけりけり しくけり 昔のふ

定本

風蘭 風葉や 涼山く しくけり 友の初

や危

萍ふ 静さ見定るふ しくけり

鼠角

萍の咲みけり しくけり

素ト

草や 蔓と しくけり しくけり

一洲

萍や 草と しくけり しくけり

金島

紫

藤

藤のふりうへ小枝もる 葉は

松来

藤のむらさきもる 葉は

果夜

楮

楮のむらさきもる 葉は

斗檜

美竹

美竹のむらさきもる 葉は

金糸

美竹のむらさきもる 葉は

已明

美竹のむらさきもる 葉は

赤翠

六竹

六竹のむらさきもる 葉は

舎来

六竹のむらさきもる 葉は

進柳

六竹のむらさきもる 葉は

二中

六竹のむらさきもる 葉は

響を

半盤木  
夏葉

半盤木のむらさきもる 葉は

ト仁

半盤木のむらさきもる 葉は

赤翠

半盤木のむらさきもる 葉は

針六

半盤木のむらさきもる 葉は

乙抄留

半盤木のむらさきもる 葉は

坊取

半盤木のむらさきもる 葉は

藤石

半盤木のむらさきもる 葉は

響を

半盤木のむらさきもる 葉は

一甫

半盤木のむらさきもる 葉は

ト仁

半盤木のむらさきもる 葉は

二中

夏煉

夏煉のむらさきもる 葉は

二中

夏煉のむらさきもる 葉は



初蟬

中浦くさしりなのか蟬が

方珠

しり蟬ふ山家のきこひ

寛右

初蟬取すう屋敷ハ門の蟬

思水

とつききの鳴ひはるね

孫静

初せしれ南部頭中

巴龍

はつ蟬の土兼

ふね

初蟬のきこひ

流光

とつき介ふり

士童

初蟬は

介松

初蟬はと

松来

蠅

掃於く

士童

山算や突指の

豊厄

うき思

有管

あうて

慮一

蟬牛の夕日

三二

ゆき家

長江

編蝠

悦来

うはり

書所

蝠を

四日旗

うはり

字拍

堀堀のほりくや須戸の井屋  
かほちりもめさるに教よ布るは里  
一

袋堀 打風ふりころ心初ぬ 幣 堀  
中

飛埃 言砂の飛埃掃や糸等し  
何子

糸代の初きさうえさ 飛埃じ  
ト仁

涯十結舟お尺門の飛隠る  
比良

蠅 投子よさうのさきり 菴の蠅  
相来

氏干さうゆけハお初る 小蠅くぬ  
と

打きさるは 蠅 見く 蠅のあふり  
吐

火取カ 高のちねおとえす中さう火を  
る

火さうりにせのりさうる 孫山  
一場

風吹やさうく 三悔の火元去  
方球

火元虫 鐘く 出さう 那  
何

多まさうの油さうくハ火元去  
二有

毛虫 ぬさうの風ふ吹さう毛の  
抄

梳ころも 髪をわさう 朝りさ  
子

多さう何を眼あてに 登の飛  
流

投子とさうりまらさう 初  
東

舞子 梢 毒や 露くさるる 豆の 雨  
町

子又 雷とさうりまらさう 子又さ  
巴

くくゆりや掻し〜ゆゑふまふ

虚白

虫蛇

まのめまふと〜ゆりやあ〜

巴竜

水馬

梅の本も雪もおきり〜馬

夢山

そいりも只も梅も水も

野危

蚊

蚊の音も朝起〜涼〜

升岳

三のふ相のふらふら〜

う舌

蚊の音もふとふと〜

古竜

蚊雨や五尺のまも〜

夢虫

忘草煙〜見〜蚊の夕

夢一

蚊の音や〜二月月

三二

蚊

蚊火の煙〜蚊の夕

夢ト

子の戸やふと〜蚊

宗抵

馬〜ゆり〜蚊

二石

蚊

釣夜〜蚊の夜〜

夢幾

真衣紙相〜蚊

白河

蚊の音〜蚊の夜〜

祇山

蚊の音〜蚊の夜〜

社園

蚊

蚊のかれ〜蚊の中

宇松

蚊の音〜蚊の夜〜

夏車

蚊の音〜蚊の夜〜

燈采

新舟出急と業も子傳し物舟も

升六

月小瓜次し事々物舟も

升六

火串野草も見えもむやく火串も

升六

大るれ傳しと事々火串も

升六

遁入る奥山らし火串も

升六

多外の火串も之申す物舟も

升六

巧うは人をも事々火串も

升六

和風や火串も起る物舟も

升六

鹿袋角梅るの事し伸も事々

升六

物うけや事々物舟も

升六

鹿子るほし事々物舟も

升六

席の子孫物舟も事々物舟も

升六

提子を踏き事々物舟も

升六

麻の事や事々物舟も

升六

六月

六月 うちや海まのりきり 青月のえ 二有

六月 や扇のえのり 杉のきり 二有

六月 や戸口のまきき 土のえ 二有

六月 や坂のえと 草のきり 吐瀉

六月 や橋のえ 智のきり 山のきり 定在

六月 の朝のきり 麻の上 金ま

六月 や尻のきり 草のきり 雪紅

水膏 ちりきり ねんじり ちりきり ちりきり

氷室 陣 浩のきり 二 氷室のきり 針六

ちりきり ちりきり ちりきり 針岳

氷室のきり ちりきり 針岳

不二詣 鏡のきり 夕のきり 不二詣 方珠

不二詣 ちりきり ちりきり ト仁

不二詣 ちりきり ちりきり 宗法

不二詣 ちりきり ちりきり 潤月

不二詣 ちりきり ちりきり 赤后

六月 のきり ちりきり ちりきり 柳白

祇園舎 祇園のきり 月を祀り ちりきり 一

静ろや庭うきうきみく輝の児

枕窠

御後 果々ふふふへふふふりぬ松川

字松

夕風と噴むと川の清話心

梅里

川風や麻と蓮も程子

宗批

川社 桐の葉は流るるあふり川社

吐瀉

夜つりり子芒もええく川社

持堂

夏祿 川風やふた子かしくる夏祿

流光

孔代 孔代やあけ後のつらき松

啓心

形代 巾夕きまきまの人かき

赤后

形代 巾星く流るるう後

練心

形代 と前のつらきあけさき

長塔

形代 や何やうく流るる流のえ

流光

茅梅 形代 巾茅梅はくく松か風

啓心

乃一 汐ふ人の出く来る茅梅心

松古

稲妻 もひとあけく来る茅梅心

赤后

上風 風薫るを作平持かき

升六

梅の本や夏もなまき風つる

素指

を風 くくくく家かきくりき

鼠角

不風 冬冬風の初ききあきき

附子

冬冬あけくくくく後り那

雪危

三十五

まゝ東風平しり如きる日わうふ

青き風よ羨望赤し西の海

まゝ東風下野の意さる井

土用とまゝる門田お事る

城の柔乃ちさくち路さる

半ち用立ハ秋来る門田

土用干つまゝ生垣お事る

ち用干船の形ゆふしり

ち干十薬の意まゝ干の

ち干やまゝるちゆる山の

暑 心吹よまゝ所の足ゆる

まゝち風の意お事る

まゝちりや雷ふちる

まゝちりまゝるちゆる

まゝちりまゝるちゆる

まゝちりまゝるちゆる

まゝちりまゝるちゆる

炎天 炎天やまゝるちゆる

炎天の香ふ事りちゆる

炎天の口まゝるちゆる

曇舟

有疎

己明

子乾

梧夏

吾厄

省我

以良

菰堂

李心

魚伝

二有

三有

梅お

梅お

梅お

仙路

持坐

赤雲

雲心

炎さやりのまき那まきまき入

二江

日蓋

日さうりう月小庵まきあきり

方珠

日所うり成むまきうに松の尾蓋

杜園

穴隣よりさうりれまきおまきり

礮公

毎りれりまきうり成見まき松うり

柳鳥

日さかりまきうりまき松まき静く

一場

日まきりや松釜まきうり浦のつ

二有

多峰

まつう程おなまきうりまきの峰

舎菜

まきのまき大遠持まき岸まきり

公取

へまき日まきうりまきの峰

峰心

又立

建家や圃まきうり成陣まき立

升六

夕まきり白いまきうり菊のお

升岳

夕まきりまきまき柳おらまきうり

公涯

申うりまき見まきや松成まきうり

字松

夕まきを松のまきうり松陣まきり

松木

申うりまきうり松陣まきうりの月松成

公取

夕まきやまきうりまきうりまきうり

松木

夕まきやまきうりまきうりまきうり

松木

申うりまきやまきうりまきうりの二り月

白松





清き持たしをさるる主師

素十

清き水も小川も小川も清き水も

魚一

心清き人も心清き清き水の

魚眼

川の清き水もあけあけ清き水の

魚舟

夕月の清き水も清き水の清き

清光

砂浜も清き水も清き水の清き

清光

瑞波

見よりの清き水も清き水の清き

方珠

清き水の清き水も清き水の清き

吐瀉

清き水の清き水も清き水の清き

有流

町水

清き水の清き水も清き水の清き

出江

清き水の清き水も清き水の清き

省我

清き水の清き水も清き水の清き

風高

清き水の清き水も清き水の清き

二月

清き水の清き水も清き水の清き

壽院

清き水の清き水も清き水の清き

方珠

晒井

清き水の清き水も清き水の清き

赤辰

清き水の清き水も清き水の清き

孤舟

清き水の清き水も清き水の清き

柳

清き水の清き水も清き水の清き

柳

清き水の清き水も清き水の清き

柳

清き水の清き水も清き水の清き

柳

簞

ふゆふゆふゆ月ゆくあつり

冬古

簞 みるに 流るるもふりりり

三枝

けしきよきの一葉もるりたてり

雪吹

杉風よもも月ありあつり

冬危

簞枕

簞よりくせそ夕ぐれの風乃音

枕を

扇

る此の炎天巻るあふさうね

比呂

扇 くりの音うりりり

五枝

お扇およ入る山うりりり

二有

馬うりり扇うりりり

お来

満汐や月のけしきあつり

ト仁

賀茂川のおくせふりりり

完

月のおと扇あつりりり

社

團

門くやうりりりり

持建

日傘

持子おあつりりり

二有

あけ目の伏見瓦おつりり

夜来

編笠

あつりりりりりり

社園

帷子

帷子や松うりりりり

三枝

かきむすの入り朝のあつり

茶

帷子や喜柚のあつりり

枕

うりりりりりりりり

涼

糸をよみまじりて唯子定りせしむる

魚照

単物 大いみれ人子ま味しむるもの

今

晒布 ちとくくとつりしりのあけり晒うま

三枝

辻谷 山さきもこ時ふらふらに過るる

物鳥

夏瘦 夏瘦の虫さきかきり居の赤

中危

加定銭 拙しとまきりさし加定銭

一

着水 着水や涼しとさるるまお葉

心

くまふらうくは動く年のせ

方珠

冷物 三日月の行り河をさるり次しお

乙味

冷夏 冷し夏夕のあおえしり

ト仁

汁 汁のあけりおと新りすし汁

雨の旋

瓜の書や菘の中りる夏の鏡

杉也

夕りや柳涼くは瓜の書

風朝

心太 元龜の水よえりぬを

石心

川狩 川狩や涼しと風う彩下よちる

葦堂

川狩 中家のうしろを 牡

舎

川 うちや日を頂上のおうり

炊米

河 狩中経るおしゆらま月松

杉也

川 狩をまきりてあうま月松

鼠角

狩 ころまの窟まる小川うま

着衣

川物の細もも入るや三つ  
河うりの暗ハ露ある小ま

川物や桶の海入るまらの家  
秋風

秋を雀  
三つ月のまふや移る雀

お給多  
弦掻き風は吹きぬねけき

蝉  
三つや菊のりやけを蝶のあ

蝉鳴くお鳥肥を垣根をか

三つや秋へもうなち用い

蝉鳴くお鳥おとけし秋のう勢

お新や一蝶のまもまも六のめ

啼け月おけきりいの蝉

おに鐘をまほふまう蝶のあ

蝉いへ生眼の雲と鳴あけり

嵐もも流るまみまう蝶の色

おの蝉風のまもまもみふり

蝶はまかりおまあうぬまのあ

梶のふりまもやまのあ

まも樹はあけりおハ蝶の色

橋所やいらりま果さるすの色

三つまもまもまのさうり

蓮 蛭

葉石 士童 秋風 丹庖 素糖 茶丸 赤翠 馬山 宗徳 杉虫 雷鳴 夜来 小羽 子杉 乙竹 一陽 枕白 吐海 金糸 乙羽

六月のちやかのきぬきうぬ  
 昔もや新くうぬのまのまの  
 ちやかのちやかの水あききき  
 鉄線石 ちやかのちやかの鉄線石  
 嬰妻 家あきハ控子もあき山崎のま  
 控子やちやかのちやかの文あき  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 昔もやちやかのちやかの風あき  
 昔もやちやかのちやかのちやかの  
 小ま味ちやかのちやかのちやかの

澤馬 沢馬のちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの  
 ちやかのちやかのちやかのちやかの

廿三

夕魚

夕魚のやまきりものを水くり

針心

夕魚や 固ふく竹ふくの海

士竜

夕顔のゆきりすくく戸口

蓋波

夕魚や 成くつ後けくあは音

葦堂

時計

時計のまきりくくまふま

何虹

麻

麻のうも相魚のゆき戸口

液千里

ゆき時や 袂くくあま麻の虫

字柏

綿花

綿花のゆき二日まつと那

如厄

やまきりまきりまきり午の鐘

与城

百日紅

百日紅の月のおあり百日紅

不裂

百日紅まきりまきりまきり

巢夜

かきりまきりまきりまきり百日紅

何舟

ゆきまきりまきりまきり百日紅

齋院

思まきりまきりまきりまきり

練石

雑夏

雑夏のまきりまきりまきりまきり

瑞る

樹のまきりまきりまきりまきり

全



世名の不順もまきりまきり山の名

葦堂

まきりまきりまきりまきり夏青

与城

人のまきりまきりまきりまきり

东望

夏のまきりまきりまきりまきり

有心

秋近  
夕うけや 芳ふふつる 夏乃人  
六串 月もをよもふれそ 山の秋  
不斐

秋  
ちうけ物と 氣より 子  
定在

菊  
栞より 並ハ 朔く 秋ら  
盤沈

青  
くの人 姑多ふ 秋ら  
と書

夏深  
る 涼さ 夏 高きり 多り 麻の家  
善果

香  
うけ 多る 多し 山のを  
二有

秋結  
秋中 山 暖 涼 小 多し 井の音  
虫江

五  
暑 夏の 暮山 涼の 本 立を 多り  
干杉

流行百家句集夏之部終

浦村

下

本之

紅

白

七

と



浦村

之

善  
良

家

言

出